

---

**日 本 水 大 賞**  
2007日本ストックホルム青少年水大賞

---

**受賞者へお祝いの言葉**

---

# 受賞者へお祝いの言葉

## 祝 辞

向上高等学校生物部の皆さん、栄えある「第9回日本水大賞」の大賞受賞、誠におめでとうございます。

皆さんの生物部は、学校近くの水路で外来種タイワンシジミの生息を確認して以来、先輩から後輩へと引き継ぎながら、8年間にわたって相模川流域におけるシジミ類の分布調査をしてこられました。このたびの受賞は、こうした地道な調査を通じて、タイワンシジミの分布が拡大した原因を究明したことや、専門家と協力してマシジミとの判別手法の開発を進めていることなどが、全国的にも意義深い活動として高く評価されたものです。

県としましても、流域の方々と一体となって生態系に配慮した河川環境を創造することを目指しており、皆さんの活動には大きな期待を寄せています。

今回の受賞を励みに、今後ますますご活躍されることをお祈りいたしますとともに、生徒の皆さんの活動を支えてこられた学校の先生方をはじめ、関係の皆様のご尽力に敬意を表しまして、お祝いの言葉といたします。

平成19年6月1日  
神奈川県知事 松沢 成文

## 祝 辞

米沢中央高等学校科学部の「第9回日本水大賞・国土交通大臣賞」受賞おめでとうございます。

米沢中央高等学校におかれましては、これまでも、地域環境保全活動に関する環境庁長官表彰や地球温暖化防止活動の環境教育部門の環境大臣賞、さらには、先生方に対する日本化学会・化学教育有功賞など数多くの賞を受賞され、これに新たに栄えある賞が加わったことは誠に喜ばしい限りです。

このたびの受賞は、40年にもわたり最上川の水質等の調査研究を継続されるとともに、水質や景観の調査を兼ねて最上流から河口までゴムボートで川下りを行うなど、マスコミ等を通じて河川に関する関心を高めたこと、さらには、これまでの成果をもとに河川環境の改善に向けた科学的データの提供や流域住民の交流連携に関する取り組みが高く評価されたものと思います。

このような様々な活動を実践してきた歴代の科学部の生徒の皆さん、そして、指導されてこられた顧問の先生方に対して心から敬意を表します。

県では、河川環境の改善、整備をはじめ、県民や企業、行政等の連携のもとに、最上川をシンボルとした県土づくりを展開しております。

米沢中央高等学校科学部の皆さんには、これまでも最上川に関する様々な事業に参加いただいております。この受賞をさらなる励みとして、全国や世界に誇れる母なる川・最上川になるよう、今後とも諸活動に積極的に取り組まれますとともに、本県を貫く最上川の流域全体へ広がり、響き合って、さらなる行動を沸き起こしていくことをご期待し、お祝いの言葉とします。

平成19年6月1日  
山形県知事 齋藤 弘

# 受賞者へお祝いの言葉

## 第9回「日本水大賞」各賞受賞者への祝辞

このたび、第9回日本水大賞において、環境大臣賞を受賞されたNPO法人 田んぼ様並びに奨励賞を受賞された宮城県石巻工業高等学校 天文物理部様及び佐々木久雄様に対し、心からお祝い申し上げます。

NPO法人 田んぼ様には、自然共生型農法である「ふゆみずたんぼ」の実践活動、宮城県石巻工業高等学校 天文物理部様には、水産廃棄物であるカキやホヤなど殻などを有効利用する技術開発、佐々木久雄様には、富栄養化の進む松島湾における大型海藻アカモク藻場の創出や食材としての商品化といったそれぞれの地道な活動が、今回、水循環系の健全化に寄与するものとして高く評価されたと考えております。

皆様の活動は、宮城県が策定いたしました「宮城の将来ビジョン」の基本方向である「人と自然が調和した美しく安全な県土づくり」に資するものであり、その成果が、今後様々な形で広く活用され、今回の表彰を契機にますます発展されますことを御期待申し上げます。

平成19年6月1日  
宮城県知事 村井嘉浩

## 祝 辞

加古川グリーンシティ防災会、兵庫県立播磨農業高等学校・稲作研究班をはじめ、「第9回日本水大賞」を受章された皆さん、おめでとうございます。

「水」を通して、人と自然、人と人、人と社会の関係を考え、新しい地域づくりに生かしていこうとする取り組みが、全国で数多く展開されています。本当に素晴らしいことです。

阪神・淡路大震災では、近隣の助け合いが多く命を救いました。日頃からの備えが大切なだけに、防災と水をキーワードに心の通うコミュニティを育まれているグリーンシティ防災会の活動は、安全安心な地域づくりのモデルです。

また、高校生の皆さんが地域の人々と力を合わせ、ふるさとの豊かな自然を守り、生かす活動に長年にわたり取り組んでいます。次代を担う若者のチャレンジに心から拍手を送ります。

このような皆さんの主体的な活動こそが、21世紀の日本の未来を切り拓いていく原動力。これからも、楽しみながら、じっくりと活動の輪を広げていかれることを期待しています。

平成19年6月1日  
兵庫県知事 井戸 敏三

# 受賞者へお祝いの言葉

## 祝 辞

「第9回日本水大賞」・「2007日本ストックホルム青少年水大賞」の栄えある各賞を受賞されました皆様へ、心からお祝い申し上げます。

この度、京都府内からは、府立桂高等学校草花クラブと企業の皆様が文部科学大臣賞を、鴨川を美しくする会の皆様が審査部会特別賞を受賞されました。

府立桂高等学校草花クラブにおかれましては、昨年に引き続いての受賞で、さらに今回は産学連携のもと、高等学校の域を超えた活動であるとの高い評価をいただいております、素晴らしい限りです。

また、鴨川を美しくする会におかれましては、山紫水明の京都を象徴する鴨川の美化活動をはじめ、春の「鴨川茶店」、夏の「鴨川納涼」など幅広い活動を40年以上もの長きに渡り行っており、日頃から大変感謝しているところです。

京都府といたしましても、第3回世界水フォーラム開催地、さらには「京都議定書」誕生の地として、環境先進地京都の実現を目指し、身近な水環境の保全や世界の水問題の解決に向けて全力を挙げて取り組んでいるところです。今後とも水に関する様々な調査・研究・活動が日本水大賞制度を通じて、ますます発展することを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成19年6月1日  
京都府知事 山田 啓二

## 「堀川まちネット」第9回日本水大賞市民活動賞受賞に あたっての市長祝辞

第9回日本水大賞市民活動賞の受賞を、心よりお祝い申し上げます。

古い歴史を持ちながら時代の変化とともに忘れられていた「堀川まつり」に眼を向け、まつりの復興による「まちづくり」と「水文化の継承」へのご尽力に敬意を表すると同時に、毎年恒例となった市民と行政の協働による「堀川一斉大そうじ」の端緒を開いていただいたことに感謝申し上げます。

「堀川まつり」の復興は、市民の水質浄化への気運を高め、「堀川一斉大そうじ」には毎年多くの市民が参加するようになりました。こうした市民の取り組みが、今年3月からの木曾川導水による社会実験の実現への後押しにもなりました。

「堀川まちネット」の受賞は、私にとって大きな喜びであり、水環境の改善に取り組んでいる他の団体の励みになるものです。これを機に、名古屋の「母なる川 堀川」に清流を取り戻すための市民活動が、さらに活発になり、本市が市民との協働で実現をめざしている「環境首都なごや」への大きな原動力となることを期待しています。

今後も「堀川まちネット」が、本市の力強いパートナーとしてさらなる飛躍を遂げられることを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成19年6月1日  
名古屋市長 松原武久

# 受賞者へお祝いの言葉

## 日本水大賞 国際貢献賞 受賞祝辞

第9回日本水大賞「国際貢献賞」を受賞された「上総掘りをつたえる会」の皆様、おめでとうございます。

上総掘りは、千葉県の上総地方で考案された、鉄製の道具や竹などの身近な素材を利用した掘り抜き井戸の掘削技術です。

上総掘りは、その技術の平易さや資材調達の容易さなどの点から、水不足に悩む発展途上国に技術伝承が図られており、「上総掘りをつたえる会」は、主にフィリピンにおいて活動を行っています。

活動の内容は、海外での井戸掘削だけでなく、現地ボランティアグループへの技術移転にも主眼が置かれており、本賞の趣旨である、人・文化・技術の日本との交流に大きな功績をあげていると考えられます。

今後とも、「上総掘りをつたえる会」の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成19年6月1日  
千葉県知事 堂本暁子

## 東京都からの受賞者に対する祝辞

「第9回日本水大賞」において、東京都から受賞された皆さん、おめでとうございます。

隅田川市民交流実行委員会の皆さんは、東京のシンボルでもある隅田川の清流復活に向けた幅広いボランティア活動を展開され、小島貞夫さんは、水道水の高度処理技術の実用化に取り組み、「東京水」に代表される東京の“おいしい水”の礎を築かれ、それぞれの分野で水循環の健全化に貢献されました。

東京都は2016年のオリンピック開催を視野に入れ、東京をさらなる成熟を遂げた都市へ生まれ変わらせるため全力で取り組んでいます。水は、あらゆる生命の源であり、人々が集い、賑わいあふれる水辺空間は、潤いと安らぎに満ちた魅力的な都市には不可欠です。

健全な水環境を次世代に引き継ぐため、さらなるご活躍を期待して、お祝いの言葉といたします。

平成19年6月1日  
東京都知事 石原 慎太郎

# 受賞者へお祝いの言葉

## 自然史教育談話会 第9回水大賞奨励賞受賞祝辞

自然史教育談話会様の、栄えある日本水大賞奨励賞の受賞、誠におめでとうございます。今回のご栄誉を心からお慶び申し上げます。

このたびの受賞は、三重県伊勢市の宮川流域下水道事業による宮川浄化センター建設予定地で絶滅危惧種のヒヌマイトトンボが発見されたことを契機とし、以来8年間もの長きに亘り、専門家や行政と協力しながら環境保全の啓発や知識の普及に取り組まれ、絶滅危惧種の保全に寄与されてきたことが評価されたものと考えております。

自然史教育談話会様の、このような地域の方々や学・官と協働した活動が、更なる環境保全活動の広がりにつながっていくことを期待するとともに、今後、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。

平成19年6月1日  
三重県知事 野呂昭彦

## 祝 辞

「第9回日本水大賞」審査部会特別賞受賞おめでとうございます。

熊本県は豊かで清らかな地下水に恵まれ、水道水源の約8割を地下水で賄っています。特に、熊本市をはじめとする熊本地域は、人口60万人以上の都市としては全国でも例を見ない、生活用水の100%が地下水で賄われているというすばらしい環境にあります。県民共通の財産であるこの地下水を次世代に引き継いでいくためには、県民の方々をはじめ環境保護団体、学校、事業者、行政が連携して保全活動に取り組むことが必要です。今回の受賞は、こうした活動にはずみをつけることでしょう。

「肥後の水資源愛護基金」は、熊本の貴重な水資源を保全し子や孫に伝えるため、水資源の涵養・保全等に真剣に取り組まれている各種団体・個人などを顕彰することで、県民の水への関心を高め、水資源の保全活動を実践普及することに努めてこられました。こうした永年にわたる地道な取組みが高く評価されたことを大変うれしく思います。

長野理事長をはじめ、関係者の皆さまの情熱ある取組みに改めて感謝申し上げますとともに、「肥後の水資源愛護基金」が、今後ますます発展されますことを心からお祈り申し上げます。

平成19年6月1日  
熊本県知事 潮谷義子

# 受賞者へお祝いの言葉

## 「2007日本ストックホルム青少年水大賞」大阪府知事祝辞

清風高等学校生物部の木村諭史さん・辻井悠希さん、関西大倉高等学校の松葉成生さん、受賞おめでとうございます。「2007日本ストックホルム青少年水大賞」という名誉ある賞を受賞され、心よりお祝い申し上げます。

かつて大阪は、「水の都」と呼ばれたように、古くから水とのかかわりが深く、京の都と瀬戸内を結ぶ水運が発達し、経済や物流の拠点である「天下の台所」として繁栄してきました。

『水』は、農業生産を始め、治水・防災、生態系保全、景観形成など私たちの生活に深く関わっており、「水辺」を媒体とした地域の歴史や文化を活かしたまちづくりが進められてきたところです。

特に、大阪は年降雨量が少なく、日本最古のかんがい用水源である「狭山池」の築造を始め、「ため池」や「水路」などが数多く存在するなど、古くから農業生産の基盤を構築した水文化を形成してきました。

今回の研究テーマである「池干しの効果」は、農業生産だけでなく、生き物の生息空間でもある「ため池」の水環境保全にとって参考になると考えています。

高校生のみなさんにおかれましては、日常の学習のみならず、このような専門的・積極的な学習意欲並びに研究の継続・深まりには驚くばかりです。

このような日本の高校生のすばらしい研究が、大阪から日本国内のみならず、今後も、世界へ発信されることを期待するとともに、本取り組みの今後ますますのご発展を祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

平成19年6月1日  
大阪府知事 太田房江

## 「第9回日本水大賞」・「2007日本ストックホルム青少年水大賞」表彰式 受賞者活動作品集における知事祝辞

このたび、岩手県立盛岡農業高等学校生物工学科 サクラソウ保護研究班が栄えある2007日本ストックホルム青少年水大賞審査部会特別賞を受賞されましたことは、誠に喜びに堪えないところであり、その地道な努力と画期的な成果に対し敬意を表するものであります。

さて、「21世紀は水の世紀」と言われるほど、世界は水不足、洪水災害、水質汚染などの水問題に直面しております。

そして、それらの問題は人口の増大や地球温暖化などにより、今後さらに深刻化することが懸念されており、その解決に向けて国際的な取組みが求められているところであります。

とりわけ、将来を担う青少年の水環境問題に対する関心を高めていくことが重要と考えますことから、本賞の取組みは誠に意義深く、大きな期待を寄せるところであります。

岩手県といたしましても、河川の清掃活動を行う団体への支援や河川愛護活動に対する表彰などを通して、より良い水環境の保全等に対する県民意識の向上に努めて参る所存でありますので、関係各位の今後なお一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、運営に御尽力されました社団法人日本河川協会様をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、本賞が今後も大きな成果を上げられますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

平成19年6月1日  
岩手県知事 達増 拓也